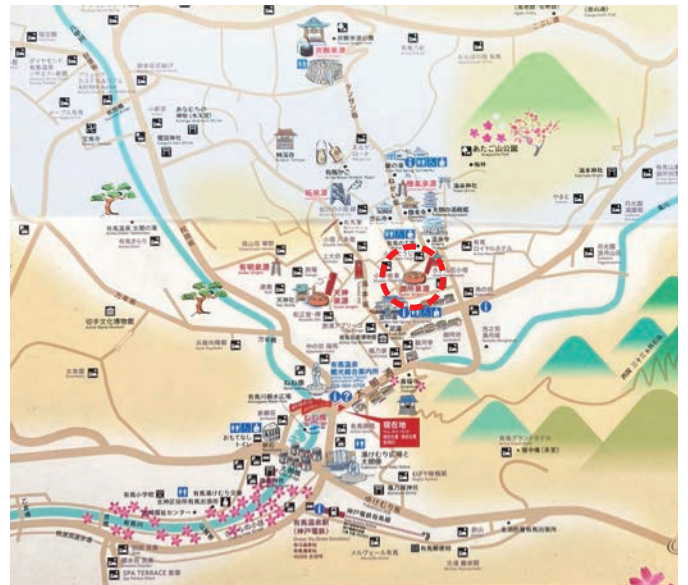


NO. 415
2025.8・9

CENTER NEWS



目 次

「目指すは四方よし！ センターのみらい」	窪田 博之…………… 1
6・7 月定例理事会	…………… 3
寺西前理事長 大阪府知事表彰を受賞	森 辰義…………… 4
【四方山話シリーズ】	
強度定数 c, ϕ の求め方・使い方（第 1 回）	大島 昭彦…………… 5
会社探訪記（株）ソイルシステム）	…………… 8
「ハラスメントセミナー」開催報告	森 辰義…………… 10
「第 60 回地盤工学研究発表会」参加報告	高野 七海…………… 11
小委員会メンバー名簿	…………… 12
委員の独り言	長谷川 智昭…………… 13
編集後記	中谷 英之…………… 14

表紙説明

御所泉源：（右下 案内地図内の赤丸）

1400 年の歴史をもち、「日本三古泉」「日本三名泉」と名高い有馬温泉。

有馬の褐色で高温の温泉は「金泉」と呼ばれ、昔から多くの人が湯治に訪れ、愛されてきました。その金泉が湧き出る「泉源」は、100℃近い温泉のため湯気がもくもくと立ち上り、温泉街らしい景色を演出する人気の観光スポットです。

出典： <https://www.city.kobe.lg.jp/a64051/arimasengen.html> 2025.8.6 取得

（作成：中山 義久）



「目指すは四方よし！ センターの未来」

理事長 窪田 博之

第46期より理事長に就任いたしました窪田でございます。平素は協同組合関西地盤環境研究センターに格段のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

早いもので当センターの理事に加わり約20年、理事就任時と比べると地質調査業界ならびにセンターを取り巻く環境は大きく変わりました。お陰さまでセンターの基盤はかなり安定し、企業で例えるなら自己資本率70%を超える超優良企業でございます。一重にこれまでセンターを支えてくださった組合員の皆様、寺西元理事長をはじめ歴代理事長と理事の皆様、そして歴代専務理事ならびに職員の皆様の賜物でございます。この安定基盤を継続し更に発展できるかは、大きな重責であり不安も多くございますが、現状に奢らず、寺西元理事長から託されたタスキを大事に携え一生懸命走りぬきたい思いです。

さて、これまでの理事会を振り返りますと、山あり谷あり、厳しい議論が多くありました。どの理事の方々もセンターのために、理事会に真摯に取り組んでおられる姿勢は、私自身の勉強にもなりました。

常にセンターの理事として思うのは、組合員よし、職員よし、品質よしの「三方よし」の実現であり、どれ一つ欠けるとセンターの基盤は揺らぎます。組合員の代表という立場から、新しい理事会や職員の皆様と共にセンターの最適バランスを目指したい思いです。

理事会ではいつも様々な意見が出ます、各理事は各企業の規模や特色により、テーマによっては両極端に意見が割れるケースがあります。審議結果を出すのに苦慮するテーマとして、職員皆様の待遇・配当・単価が挙げられますが、三方よしのために避けて通れぬ重要な審議テーマです。今後も、組合の最適化を目指し審議を尽くして参ります。

一方、センターは設立から45年が経過し、現在組合員54社、賛助会員7社とセンターの規模が徐々に拡大して参りましたのは、当センターに対する期待度の表れと自負しております。この期待に応えるべく、当センターでは、職員の更なる技術力向上と試験処理能力を高めるための設備投資を継続し実施して参ります。

具体策として、技術力向上については西形先生、澁谷先生、大島先生による著名な顧問の先生方と中山相談役により、職員教育を継続し更なる技術力・品質力向上を目指して参ります。

設備面においては、沈降試験の自動化など省力化試験機の開発や適切な試験機の更新を継続して実施して参ります。また、組合員様の要望を集約し、新たな設備導入も検討して

参りたいと思います。ほか、タイムリーで充実した支援サービスの内容も検討を重ねて参ります。

センターは、組合員の皆様に高品質な成果品と丁寧な対応ならびに迅速な納品を目指します。さらに、組合員としてのメリットを最大限お返しできるよう、努力して参りたいと思います。時には、ご迷惑をお掛けすることもあるかと思いますが、その際はクレームや改善点・運営方法など、窪田に直接でも大歓迎ですし、担当者でも結構ですので、どしどしお寄せください。このお声はセンターの改善に役立ち、みらいのセンターの糧になることでしょう。

最後に、どうか組合員の皆様には、これまで以上に当センターをお支え頂きたいお願い申し上げます。「組合員よし、職員よし、品質よし」に加え、「センターのみらいよし」を加えた「四方よし！」で、組合員の一代表として、当センターを躍進させたいと思います。



6月

定例理事会

Regular board of directors

令和7年7月2日（水）15時00分より、大阪キャッスルホテル会議室にて理事9名が出席して開催した。

【報告事項】

- 1) 一般経過報告
5月の会議・会合・行事について報告した。
- 2) 5月分事業報告の件
- 3) 第45期通常総会費用精算報告の件
- 4) 令和7年度（第46期）臨時総会及び特別講演会開催について
- 5) その他の件
 - (1) 組合員代表者変更のお知らせ
 - (2) 大阪府中小企業団体中央会「第67回中小企業団体大阪大会」表彰者推薦の件

【審議事項】

- 1) 組合職員夏期賞与支給検討の件
- 2) 組合小委員会担当理事の件
- 3) 組合建物内部改装の件
- 4) 退任理事慰労金支払い件
- 5) その他の件
 - (1) 大阪府中小企業団体中央会「創立70周年記念誌」協賛広告募集の件

7月

定例理事会

Regular board of directors

令和7年7月30日（水）15時00分より、組合2階会議室にて理事9名が出席して開催した。

【報告事項】

- 1) 一般経過報告
6月の会議・会合・行事について報告した。
- 2) 6月分事業報告の件
- 3) 令和7年度第1四半期（4月～6月）収支予算額・実績額対比報告の件
- 4) その他の件

【審議事項】

- 1) 令和7年度（第46期）通常総会開催日時・開催場所の件
- 2) その他の件
 - (1) 試験単価について
 - (2) 調査収集データ活用の件

☆ お知らせ ☆

○ 組合員企業代表者変更

会 社 名 ビューエンジニアリング株式会社
代表取締役社長 （新）工藤 高弘 （旧）田中 啓司

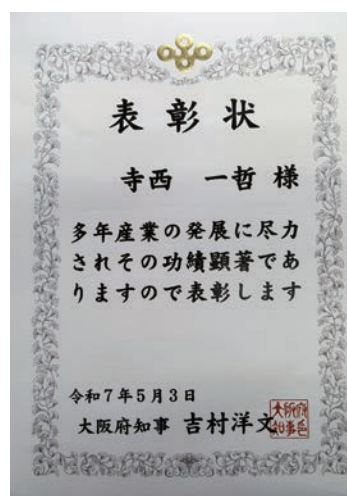
寺西前理事長 大阪府知事表彰を受賞

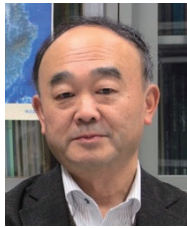
副センター長 森 辰義

令和7年5月7日（火）大阪府主催による「憲法施行記念式典並びに善行者、各界功労者・団体への憲法記念日知事表彰式」が大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）で開催され、当センター前理事長 寺西 一哲様が長年の功績が認められ「大阪府知事表彰（産業功労者 商工関係）」を受賞されました。この賞は大阪府知事表彰の中で最高の賞となります。当センターにとっても名誉なことであり、お祝い申し上げます。



令和7年度憲法施行記念式並びに表彰式 令和7年5月7日 大阪府立国際会議場





強度定数 c, ϕ の求め方・使い方（第1回）

関西地盤環境研究センター 顧問

大島昭彦（大阪公立大学名誉教授・特任教授）

前回までにセンターニュース（2024年4・5月号，2024年10・11月号）で「実用的なせん断試験とは」について2回のシリーズで解説しました。今回からは「強度定数 c, ϕ の求め方・使い方」についても2回シリーズで紹介します。1回目は「強度定数 c, ϕ の求め方」について解説します。

皆さんは土質力学のせん断の授業で、土の強度は「せん断」によると習ったと思います。鋼やコンクリートでは引張や圧縮で強度が決まるのに対して、土は外力によって発生するせん断応力がある限界を超えるとすべり面を生じてせん断破壊します。その限界値を「せん断強さ」と呼んでいます。実地盤の支持力，土圧，斜面安定などもせん断強さを基に設計されます。

土のせん断強さを求める最も分かり易いせん断試験は一面せん断試験です。一面定圧せん断試験では、土のせん断強さ τ_f は図-1 に示すように、与えた垂直応力 σ に比例して増加するため、式(1)のクーロンの破壊規準で表します。これは高校の物理で習った摩擦則（2つの物体が接触してすべるとき、接触面に働く摩擦力はその面に垂直に作用する力に比例する）と同等です。

$$\tau_f = c + \sigma \tan \phi \quad (1)$$

式(1)の c ：粘着力（垂直応力 σ によらない強度成分，土粒子間の付着力や固結力による）と ϕ ：せん断抵抗角（以前は内部摩擦角と呼んでいました）を土の強度定数と呼んでいます。この強度定数は定数と言いながらも、その値は排水試験（CD：圧密後のせん断時に体積変化（間隙水の出入り）を許す試験）と非排水試験（CU：圧密後のせん断時に体積変化（間隙水の出入り）を許さない試験）で大きく異なります。図-1 の一面定圧せん断試験は CD 試験で、強度定数は $[c_d, \phi_d]$ ですが、図-2 に示す一面定体積せん断試験は CU 試験で、強度定数は $[c_{cu}, \phi_{cu}]$ ， $[c', \phi']$ となります。

一方、三軸圧縮試験では強度定数をどうやって求めているかというと、一面せん断試験のように直接せん断応力を与える（直接せん断試験）のではなく、通常は軸方向の主応力 σ_a を増加させてせん断破壊させています（間接せん断試験）。三軸圧縮試験のモール円群の包絡線が破壊線を表し、「包絡線の接点がせん断強さを表し、包絡線より外側の応力状態はとり得ない」と解釈するのがモールの破壊規準です。さらに、この包絡線を直線とするのがモール・クーロンの破壊規準であり、一般に三軸圧縮試験はこのモール・クーロンの破壊規準を用いて強度定数を求めています。以上を原則として、三軸 CD 試験と三軸 CU 試験での強度定数の求め方を考えてみましょう。

まず、三軸 CD 試験では、等方応力 σ_c （=軸方向応力 σ_a =側方向応力 σ_r ）で圧密し、排水条件で通常 σ_a を増加させて軸方向に圧縮する過程で最大主応力差 $(\sigma_a - \sigma_r)_{\max}$ となった時を破壊と見なし、その時の σ_r と σ_{af} で図-3 に示すモール円群を描きます。CD 条件では間隙水圧が発生しないので、 σ_r と

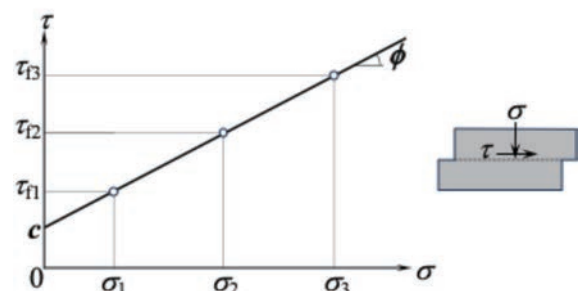


図-1 一面定圧せん断試験でのクーロンの破壊規準による強度定数

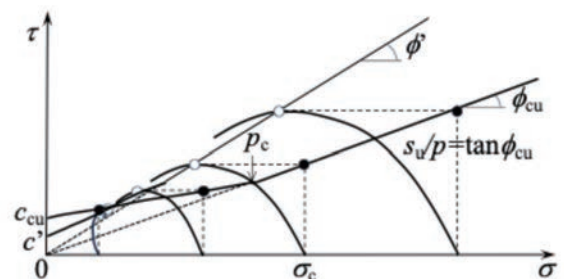


図-2 一面定体積せん断試験での強度定数

σ_a は常に有効応力であり、有効応力のモール円群の接線による破壊線（モール・クローンの破壊規準を適用）の切片と角度から強度定数 $[c_d, \phi_d]$ が求められます。これは特に問題はありません。

次に、三軸 CU 試験では、等方応力 $\sigma_c (= \sigma_a = \sigma_r)$ で圧密し、非排水条件で通常 σ_a を増加させて軸方向に圧縮する過程で最大主応力差 $(\sigma_a - \sigma_r)_{\max}$ となった時を破壊と見なし、その時の σ_r と σ_{af} でモール円群を描くことができます。しかし、非排水条件では供試体に過剰間隙水圧 Δu が発生しているので、 σ_r と σ_{af} は有効応力でなく全応力です。この全応力のモール円群に図-4 に示すようにモール・クローンの破壊規準を適用して接線による破壊線から強度定数 $[c_{cu}, \phi_{cu}]$ を求めるのは誤った整理です^{注1)}。これまで長い間実務で誤って用いられてきました（さらに、この整理ではせん断強さを過小評価します）。では何故誤った整理であるかという、通常の三軸 CU 試験は σ_a を増加させる圧縮試験ですが、 σ_r を減少させても同様の圧縮試験を行うことができます。その場合の全応力のモール円の位置は図-5 のように左側に移動し（先とは異なる Δu が発生しますが、主応力差は同じとなります）、同じ圧縮試験でも試験条件によって異なる全応力のモール円となります^{注2)}。すなわち、全応力のモール円では破壊規準を適用することはできないといえます。また、先に述べたモールの破壊規準「包絡線の接点がせん断強さを表し、包絡線より外側の応力状態はとり得ない」が成り立たないということです。

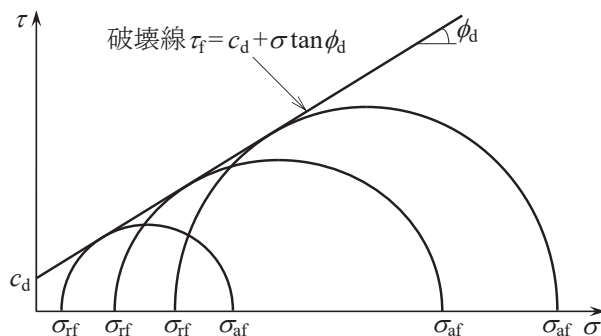


図-3 三軸 CD 試験のモール円と強度定数

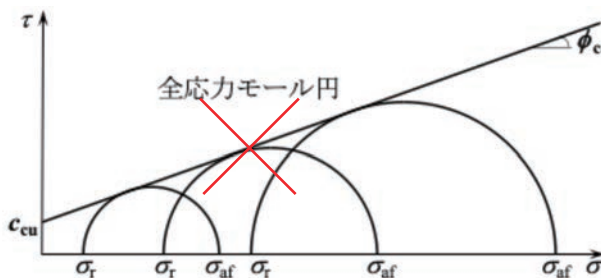


図-4 三軸 CU 試験の全応力モール円の包絡線での強度定数（誤った整理）

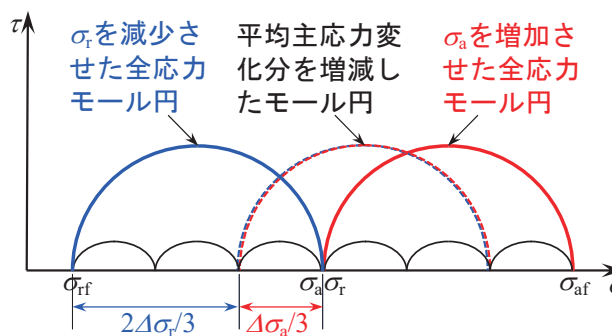


図-5 2種類の三軸 CU 試験の全応力モール円

注1) 三軸 CU 試験における全応力のモール円に対する指摘は、土質試験法第1回改訂版（1969年版）でもなされていましたが、50年以上経っても変わっていないのは何故でしょうか。これは地盤工学会の三軸試験基準が長年 CD 試験以外は強度定数を求めることを規定していないことに原因があります。実務で強度定数を求めるのは当たり前のことなので、次の赤本（地盤材料試験の方法と解説）改訂ではぜひ正しい強度定数の求め方を基準に書くべきと考えます。ただし、土質試験を生業とするジオ・ラボネットワークの皆さんはいち早く正しい整理方法に変えてはどうでしょうか？

注2) 通常の軸方向応力 σ_a を $\Delta\sigma_a$ 増加させる試験では、平均主応力 $\sigma_m (= (\sigma_a + 2\sigma_r)/3)$ は等方圧密応力 σ_c から $\Delta\sigma_a/3$ 増加します。一方、側方向応力 σ_r を $\Delta\sigma_r$ 減少させる試験では、 σ_m は $-2\Delta\sigma_r/3$ 減少します。これらは土の強度に関係しない成分であり、過剰間隙水圧 Δu として現れます。両者の主応力差（モール円の直径）は変わらないので、図-5 に示すように平均主応力変化分 $(-\Delta\sigma_a/3, 2\Delta\sigma_r/3)$ を増減させたモール円は一致します（有効応力のモール円も一致）。このモール円は平均主応力一定試験と等価であり、これへの接線による破壊線（モール・クローンの破壊規準を適用）は有効といえます。なお、過剰間隙水圧 Δu は先の平均主応力変化分にダイレイタンシーによって発生する u_d が加わります。

では、三軸 CU 試験での正しい整理方法を以下に説明します。CU 条件における強度定数 $[c_{cu}, \phi_{cu}]$ の力学的意味は「圧密応力 σ_c で圧密された土が持つ非排水せん断強さ s_u を求めるための強度

定数」です。したがって、CU 強度(s_u)を圧密応力 σ_c の真上にプロットして整理するのが正しいです。その意味では $[c_{cu}, \phi_{cu}]$ は破壊規準を表すものではなく、 σ_c に対する s_u を求めるために使うと考えればよいのです。CU 強度の決め方としていくつかの方法がありますが（詳細は赤本参照）、最も実用的な方法は図-6 に示すように、モール円の直径（主応力差 $\sigma_a - \sigma_r$ ）を3等分し、3等分線上のせん断応力をCU強度と見なし、それを $\sigma_c (= \sigma_r)$ の真上にプロットし、これを連ねる線を破壊線とし、 $[c_{cu}, \phi_{cu}]$ を求めるものです。これはせん断破壊面が平均主応力面と見なすもので、破壊角は約 55° となり、実際に近いものです。

なお、粘土の三軸 CU 試験のCU強度を図-6の整理を行うと、図-7 に示すように、過圧密域を含んで図-2 で示した一面定体積せん断試験と同様な整理ができます。残念ながら、現状の三軸 CU 試験の整理は過圧密域、正規圧密域の区別なく、1本の線（先の全応力モール円の接線）で整理していることが多いようです。今後、ジオ・ラボネットワークの皆さんは粘土試料に対しては図-7 のような整理を行うべきと考えます。

一方、間隙水圧を測定する三軸 $\overline{CU}$ (CU バー) 試験では、有効応力 $\sigma'_{af} (= \sigma_{af} - \Delta u)$ と $\sigma'_{rf} (= \sigma_r - \Delta u)$ が求められるので、先の三軸 CD 試験と同様に、図-8 に示すように有効応力のモール円の接線による破壊線から有効応力に基づく強度定数 $[c', \phi']$ が求められます。 $[c', \phi'] \doteq [c_d, \phi_d]$ となるので、CU 試験から CD 強度も求めることができます。なお、この整理から、接点でのせん断応力を先のCU強度と見なすこともできます。

最後に三軸 UU 試験では、等方拘束応力 $\sigma (= \sigma_a = \sigma_r)$ の下で、圧密せずに非排水条件で σ_a を増加させて軸方向に圧縮する過程での最大主応力差 $(\sigma_a - \sigma_r)_{max}$ 時を破壊と見なし、その時の σ_{af} と σ_r でモール円群を描きます。その結果は、図-9 に示すように飽和粘土では与えた σ によらず一定の圧縮強さを示すため、モール円の直径は変わらず、破壊線は水平となり、 $\phi_u = 0^\circ$ となります（ $\sigma_r = 0$ の場合が一軸圧縮試験）。なお、仮に三軸 UU 試験で間隙水圧を測って有効応力を測定すると、いずれも1つの有効応力のモール円に帰着します。

今回の内容はやや難解だったかもしれませんが、詳細は以下の文献や赤本を参照して下さい。次回は「強度定数 c, ϕ の使い方」について解説します。

参考文献：大島昭彦：土質力学Ⅱ，大阪公立大学出版会，p.12～34，2024。

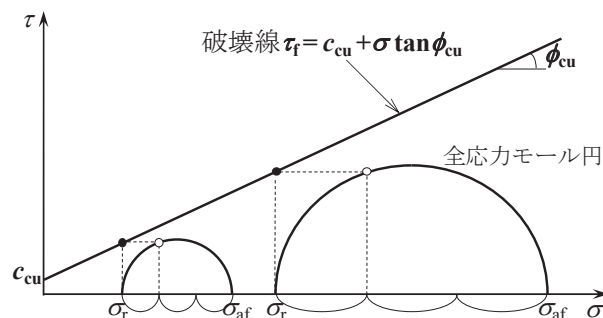


図-6 三軸 CU 試験のモール円と強度定数

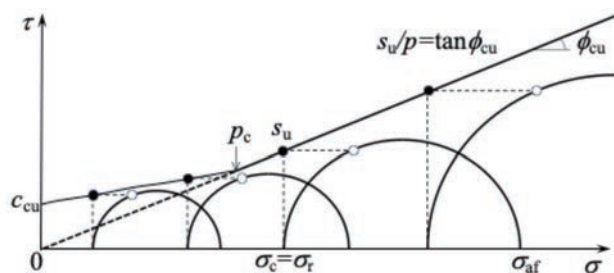


図-7 過圧密域を含む三軸 CU 試験の強度定数の求め方

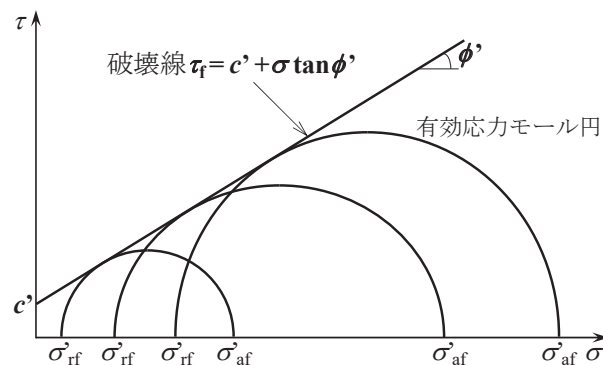


図-8 三軸 $\overline{CU}$ 試験の有効応力モール円と強度定数

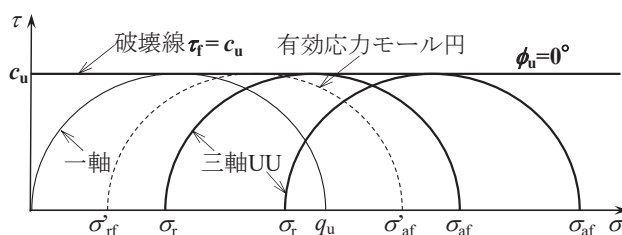


図-9 飽和粘土の三軸 UU 試験のモール円と強度定数

かいしゃたんぼうき

株式会社 ソイルシステム

会社設立 | 平成7年6月
資本金 | 1,000万円
主たる業務 | 土質・地質調査、原位置試験、室内土質試験



〈インタビュー風景〉

Q.1 社内の雰囲気は どんな感じですか？

A.1 ネガティブな発言や否定的な言動がなく、良い雰囲気
で、各自が黙々と自分の
業務に集中できる良い環境
です。



ソイルシステム 田原さん

Q.3 社員のかたは どのような方が多いですか？

A.3 現場やデータ整理などで、一つ
つの手順だけでなく、ミスしやす
い点や注意点も丁寧に教えてくだ
さいます。
また、困った際には手を貸してくださ
ったり非常に優しい方が多いです。

Q.2 どのような仕事を 得意とした会社ですか？



センター 仲西

A.2 主に官公庁や大手ゼネコンからな
どから依頼を受けて、ボーリング
調査、地質・地盤調査、室内土質
試験、現場管理といった地質業務全般、
コンサルティング業務を行っています。

Q.4 皆さんで一番盛り上がる ときはどんな時ですか？

A.4 5月30日に開催された歓迎会や
創立30周年を記念して久しぶり
に実施された慰安旅行(宮古島)
で、普段は現場や試験室で接
点が少ないオペレーターや他
の部署の社員との交流で互い
の業務内容や人柄を知るいい
機会でした。



ソイルシステム 大西さん



〈インタビュー風景〉

Q.5 センターのここがいいな～は、ありませんか

A.5 わからない事などを質問した際に的確に答え、必要に応じて資料を提供してくれるので、非常にありがたく思っています。



ソイルシステム 小山さん



〈試験室風景〉

Q.6 御社に入ってよかったと思えることはありますか？

A.6 田原：大学では地質分野を専攻していませんでしたが現場作業や試験室での実務を通じて、毎日新しい知識を得ることができ充実しています。

山内：大学では地質分野を専攻していて、学んだことをそのまま活かせるような業務をさせていただいてるのでよかったと思っています。



ソイルシステム 山内さん

Q.7 働いていく中での目標は何ですか？



センター 細川

A.7 田原：調査班では今、先輩上司の方と一緒に現場に行かせていただいています、一人でも自信をもって現場に行けるように頑張りたいです。

川内：試験室で作業させていただいていますが覚えることが多いので早いこと試験内容を覚えて、試験室の作業全部任せるよと言われてもらえるぐらいになることが目標です。

社長の一言



代表取締役

寺西 一哲

5月28日までセンター理事長を仰せつかっておりました。株式会社ソイルシステム代表取締役寺西一哲です。理事16年の内、8年間理事長をつとめてまいりました。センターの内も外も知り尽くしておるものと自負しております。

当社は、ボーリング班を10台以上有する会社で、できるだけ自社で試験・計測を行う事をモットーとしています。この事により、社員のスキルやコミュニケーション能力を高めて、社会の持続性について貢献していくことで会社の発展及び社員の成長を期待する和氣藹々の会社になれるようにしたいと考えております。

「ハラスメントセミナー」開催報告

副センター長 森 辰義

広報小委員会主催の「ハラスメントセミナー」を2025年6月18日（15:00～16:30）、センターの3F大会議室及びWEB（ハイブリッド方式）で開催致しました。

講師には大阪働き方改革推進支援・賃金相談センターの上温湯 順一様（大阪府中小企業団体中央会様からのご紹介）をお招きし、「ハラスメントが企業に与える影響を考える」というテーマで実施いたしました。参加者は組合員・組合職員合計86名（対面43名、WEB43名）と多くの方々にご参加頂きました。

セミナーの内容は下記の通りです。

- I 「ハラスメント」とは何か
- II 多様化する「ハラスメント」の種類
- III ハラスメントを考える
 - (1) パワハラ
 - (2) セクハラ
 - (3) マタハラ
- IV ハラスメントが与える企業への影響
- V ハラスメントは現代社会にどのような影響を与えているか
- VI 企業が配慮すべきポイント
- VII 事例紹介

広報小委員会では今後も、組合員の皆様方の役立つセミナーを開催したいと考えております。皆様宜しくお願い致します。



「第 60 回地盤工学研究発表会」 参加報告

地盤技術室 高野 七海

この度 2025 年 7 月 22 日～ 25 日に山口県下関市にて開催されました「第 60 回地盤工学研究発表会」に参加して参りましたので報告をさせていただきます。

今回の参加登録者数は約 2,000 人、発表論文数は 1,000 件以上、そして 84 にも上るブース出展とコロナ禍以降最大規模となる盛況となっておりました。

センターからは下表の通りの題目にて 4 名が発表いたしました。

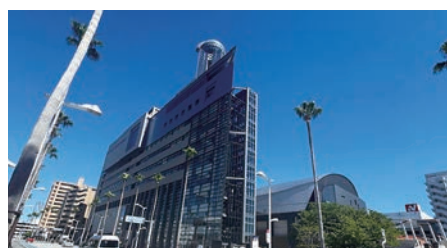
八谷 誠	宅地のサウンディング試験と自然含水比による圧密沈下予測方法の提案
三好 功季	東大阪市荒本北 2 での地盤調査一斉試験 (その 2 : 沖積粘土層の土質特性)
高野 七海	鉄鋼スラグ改良土の攪拌混合方法に関する現場実験
李 俊憲	鉄鋼スラグ混合土盛土の室内配合試験

期間中様々な研究発表を拝見しましたが、発表を聞いているだけでも非常に楽しく未来にワクワクした気持ちになりました。また研究内容だけでなく発表の際の伝わりやすい話し方、発表スライドの作り方等も大変勉強になりました。

2 日目の夜には交流会が開催され 400 名以上の方が参加されており大変賑やかな中、様々な方とお話することができました。また様々な下関の名産が振舞われ、英気を養うことができたおかげで翌日の発表に向けより一層気合が入りました。

そして迎えた発表当日は事前に練習に付き合っていたおかげでそれほど緊張することなく発表自体はスムーズに終えることができました。しかし質疑応答で質問者の意図をくみ取り切れず、上手く回答することができなかつたと反省点も残る発表となりました。ですがそれも含めてとても良い経験になったと感じておりますので、次回参加する機会があればこの反省点を踏まえて発表に臨みたいと思います。

最後になりますが足をお運びいただき発表をご覧いただいた皆様、参加する機会を与えてくださいました皆様に心よりお礼申し上げます。今回参加して得たものを業務にも活かせるように精一杯頑張りますので今後ともよろしくお願いいたします。



会場：下関海峡メッセ



発表の様子



交流会で振る舞われたフグ

小委員会メンバー名簿

教育・技術小委員会名簿（2025.04-2027.03）

	氏 名	所 属
担当理事	甲斐 誠士	大日本ダイヤコンサルタント(株)
	高松 博司	(株)キンキ地質センター
	前田 直也	中央開発(株)
	八谷 誠	(協)関西地盤環境研究センター
1	五十嵐 慎久	キタイ設計(株)
2	澁谷 奨	(株)地圏総合コンサルタント
3	佐川 厚志	中央復建コンサルタント(株)
4	島田 徹也	基礎地盤コンサルタント(株)
5	谷垣 嘉基	(株)タニガキ建工
6	辻 貴博	(株)地域地盤環境研究所
7	大西 啓太郎	(株)ソイルシステム
8	大穂 昭人	川崎地質(株)
事務局	金津 正子	(協)関西地盤環境研究センター
	三好 功季	
	田上 大稀	

2025 年 7 月 1 日現在

広報小委員会名簿（2025.04-2027.03）

	氏 名	所 属
担当理事	竹内 功	(株)関西土木技術センター
	高村 憲明	(株)K G S
	小路 博之	(株)ヨコタテック
	古川 英輔	(株)オキココーポレーション
	八谷 誠	(協)関西地盤環境研究センター
1	中谷 英之	(株)インテコ
2	荒谷 賢一	(株)関西土木技術センター
3	長谷川 智昭	(株)日建設計
4	曾根 直樹	ハイテック(株)
5	工藤 高弘	ビューエンジニアリング(株)
6	北川 高行	(株)東京ソイルリサーチ
7	小竹 雄太	(株)キンキ地質センター
8	松元 大樹	中央開発(株)
事務局	稲田 朋子	(協)関西地盤環境研究センター
	平松 翔輔	
	仲西 渉	

2025 年 7 月 1 日現在

委員の独り言

2025 年夏、あっという間に梅雨が明け、猛暑日が続いておりますが、皆様、体調を崩さず、お元気にされてますでしょうか。

大阪万博も順調に客足が伸びているようで、当初は、出向くつもりも無かったのですが、最近、「行っとかないとあかんかな」と思い始めているところです。このお祭り事業に際し、地質調査業界は、万博会場を造るにあたり、地盤調査を沢山実施することで、社会のお役に立つことが出来ました。

世の中に無くてはならない業種である地質調査業界であるにもかかわらず、今日現在、機長の高齢化が進み、若い世代の機長はどんどん減っていています。先日、地質調査技士の面接官のお役をさせて頂き、最近の若い人のやる気に圧倒される喜ばしい経験をさせて頂きました。ただ、その一方で、数年前に比べ、受験者はかなり減っていると云う厳然たる事実も再認識させられました。

昨日、イチローの殿堂入りスピーチがあったのですが、地質調査の世界も海外に通用する匠と呼ばれる職人さんがいっぱいいる業界だと思います。イチローは 30 年そこそこの現役でしたが、ボーリングホアマンは 50 年越えて現役でコツコツやってる人ばかりです。日本のこの地質調査の技術は衰退させてはいけない重要な伝承技術であることを一人かみしめて、「委員の独り言」を締めたいと思います。

(長谷川 智昭 記)



編集後記

★センターの役員が改選され、窪田理事長のもと、新たなスタートとなりました。
新体制のもと、広報小委員会も、引き続き、がんばってまいります。

★6月18日に開催しましたハラスメントセミナーは、多数のご参加をいただき、誠にありがとうございました。

ご回答いただいたアンケート結果もふまえ、第2回を計画しております。さらなるハラスメントの具体例や、職場でのコミュニケーションの取り方など、時代に合わせて、皆さんと勉強できればと思います。

★シリーズで掲載しております「会社探訪記」。今号もご協力いただき、ありがとうございました。無事、掲載しております。引き続き、ご協力いただける会社へ、絶賛取材中です。

★今年は“梅雨あけ”が早く、連日、猛暑が続いております。厳しい暑さの中、職場での熱中症対策が強化されております。

私が若手だった10年ほど前、空調服が出回り始めました。なかなかの高価で、当時、着用されている方を羨望の目で見ておりました。最近は、手ごろ感も出てきましたが、着用していないと入場できない作業所も多く、すっかり夏の必需品となりました。

皆さま、どうか体調に気をつけて、この夏を乗り切りましょう。

(中谷 英之 記)



組合員・賛助会員名簿

【組合員名簿】

(50 音順)

会 社 名	電話番号	会 社 名	電話番号
株式会社 アサノ大成基礎エンジニアリング 関西支社	(06)6456-1531	大日本ダイヤコンサルタント 株式会社 江坂オフィス	(06)6339-9141
株式会社 アテック吉村	(072)422-7032	株式会社 タニガキ建工	(073)489-6200
株式会社 池田地質	(06)6797-2280	株式会社 地域地盤環境研究所	(06)6943-9705
株式会社 勇コンサルタンツ	(06)6306-6907	株式会社 地圏総合コンサルタント 四国支店	(0897)33-3123
株式会社 インテコ	(0742)30-5655	中央開発 株式会社 関西支社	(06)6386-3691
株式会社 エイト日本技術開発 関西支社	(06)6397-3888	中央復建コンサルタンツ 株式会社	(06)6160-1121
株式会社 エス・ビー・シー	(0883)52-1621	株式会社 東京ソイルリサーチ 関西支店	(06)6384-5321
株式会社 エムアールソイル	(06)6195-6712	株式会社 東建ジオテック 大阪支店	(072)265-2651
株式会社 オキコ コーポレーション	(06)6881-1788	東邦地水 株式会社 大阪支社	(06)6353-7900
応用地質 株式会社 関西事務所	(06)6885-6357	土質コンサル 株式会社 大阪事務所	(072)634-6373
川崎地質 株式会社 西日本支社	(06)7175-7700	株式会社 中堀ソイルコーナー	(06)6384-9069
株式会社 関西土木技術センター	(075)641-3015	株式会社 日さく 大阪支店	(06)6318-0360
株式会社 基礎建設コンサルタント	(088)642-5330	株式会社 日建設計	(06)6203-2361
基礎地盤コンサルタンツ 株式会社 関西支社	(06)4861-7000	株式会社 日本インシーク	(06)6282-0310
キタイ設計 株式会社	(0748)46-2336	日本基礎技術 株式会社 関西支店	(06)6351-0562
株式会社 キンキ地質センター	(075)611-5281	日本物理探査 株式会社 関西支店	(06)6777-3517
株式会社 KGS	(072)279-6770	ハイテック 株式会社	(06)6396-7571
株式会社 建設技術研究所 大阪本社	(06)6206-5700	株式会社 阪神コンサルタンツ	(0742)36-0211
興亜開発 株式会社 関西支店	(072)250-3451	阪神測建 株式会社	(078)360-8481
国際航業 株式会社 関西事業所	(06)7175-8733	ビューエンジニアリング 株式会社	(088)665-7360
株式会社 国土地建	(0748)63-0680	株式会社 復建技術コンサルタント 関西支店	(06)6266-2244
サンコーコンサルタント 株式会社 大阪支店	(06)6121-5011	復建調査設計 株式会社 大阪支社	(06)6392-7200
有限会社 ジオ・ロジック	(072)453-1000	双葉建設 株式会社	(0748)86-2616
株式会社 白浜試錐	(0739)42-4728	報国エンジニアリング 株式会社	(06)6336-0228
一般財団法人 GRI財団	(06)6941-8800	株式会社 メーサイ	(06)6190-3371
株式会社 ソイルシステム	(06)6976-7788	明治コンサルタント 株式会社 大阪支店	(06)7178-1659
株式会社 大同ソイル	(0745)63-1850	株式会社 ヨコタテック	(06)6877-2666

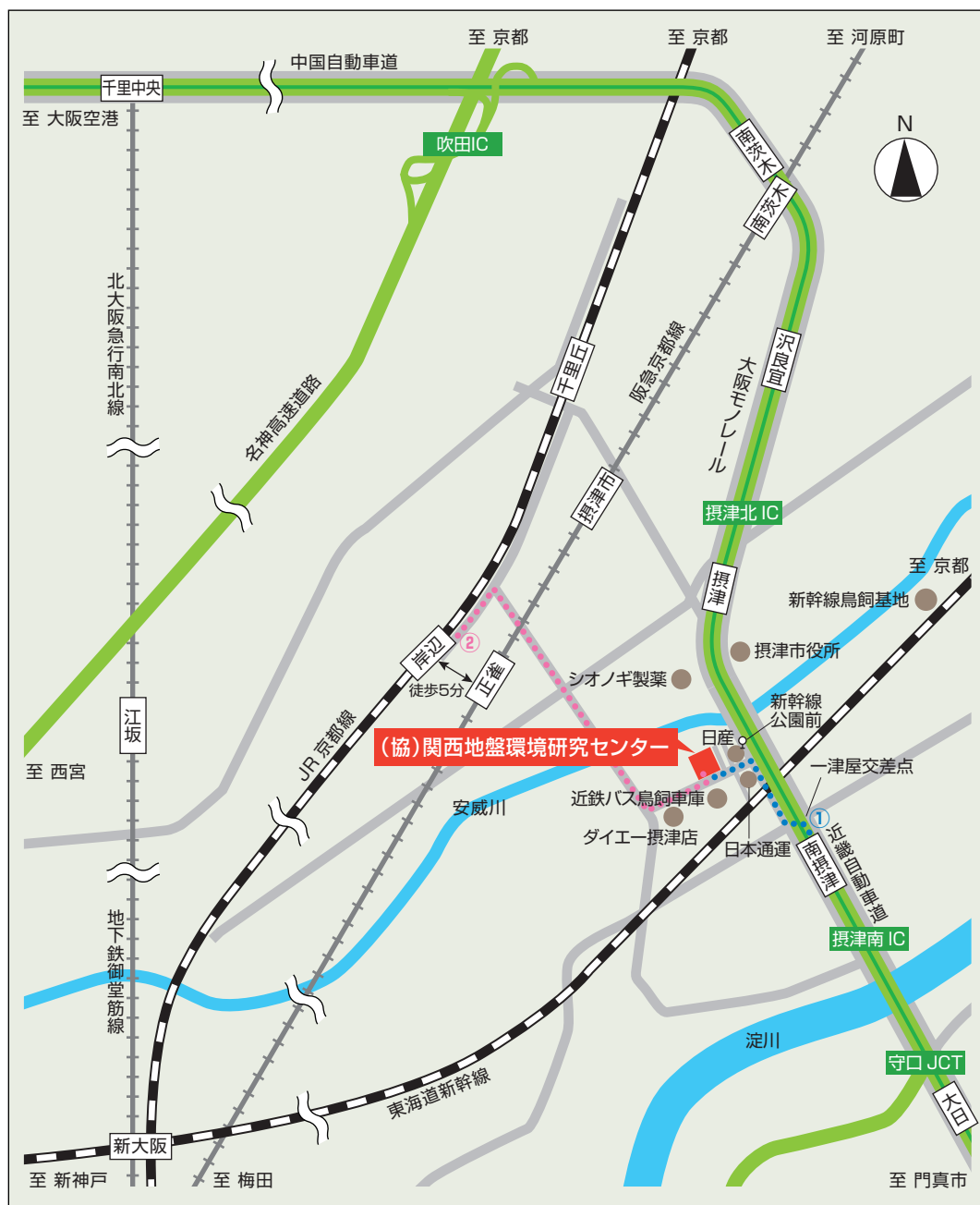
【賛助会員名簿】

会 社 名	電話番号	会 社 名	電話番号
株式会社 アーステック東洋	(075)575-2233	株式会社 ソルブレイン	(06)6981-3330
株式会社 JFDエンジニアリング	(06)6690-8353	株式会社 兵庫コンサルタント	(0799)28-1074
株式会社 創研技術	(088)652-0077	有限会社 ビュアソイル	(072)440-5137
株式会社 総合技術コンサルタント	(075)312-0653		

発 行 協同組合 関西地盤環境研究センター
 〒566-0042 摂津市東別府1丁目3番3号
 TEL 06-6827-8833 (代)
 FAX 06-6829-2256
 e-mail info@ks-dositu.or.jp

編 集 広報小委員会
 編集責任者 八谷 誠
 印 刷 千里丘印刷

<https://ks-dositu.or.jp>



① 南摂津駅(大阪モノレール)より徒歩12分

② JR岸辺駅よりタクシーで約10分

新大阪駅より地下鉄御堂筋線に乗り千里中央駅でモノレールに接続、千里中央駅から南摂津駅まで21分

協同組合 関西地盤環境研究センター

〒566-0042 大阪府摂津市東別府1丁目3-3

TEL.06-6827-8833(代表)

FAX.06-6829-2256(地盤技術室)

<https://ks-dositu.or.jp>